大正八年の十一月に私共同志が向上會を組織して極力發展を期した甚だ失敬だが官業職工や民間職工よりも自覺の程度が遲いので入會を勸誘する事がおつかしい、そこで私はどんな手段を選んでも好いから兎に角入會してもらつて集會の機會を多く作り其都度名士の講演を聞いてもらつて勞働組合の必要なる事を知つてもらうとしたのである、夫れが爲に演藝會や、電車乘廻競爭や、マラソン競爭や、娛樂抽籤等を度々やつたのである、當時は會費僅かに十錢で其會費で到底之れ丈けの事業がやれさうな筈がない、一例を擧ぐれば彼のマラソン競爭には三百圓餘を要したが全く八木が支出したのである普選運動の自動車宣傳等も同樣で大正八年以降の會計の計算簿と調査すれば之等總べての運動費は會の支出でない事が一目瞭然である某組合の如きは八木が毎月五百圓宛砲兵工廠よりもらつてをると誤解してをつた程であるから其間の消息を窺知せられる筈である、殊に福島會計の費消金千圓餘（之れは本人自書の確實な證據がある）